

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【 I・III・V 】
2 実施対象者	北茨城市立関本中学校 第1学年24名 第2学年16名 第3学年18名 保護者5名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育) 2 行事名 () 3 その他 () (2) 地域における活動 1 イベント名 () 2 その他 ()
4 目標 (ねらい)	○パラリンピック（障害者スポーツ）の競技についての理解を深め、2020年東京オリンピック・パラリンピックへの関心を高める。 ○パラアスリートとのふれ合いを通して、競技に取り組む姿勢やスポーツの素晴らしさを学ぶ。 ○障害者スポーツを通じた、インクルーシブな社会の構築を目指す。
5 取組内容	1 国際パラリンピック委員会公認教材“ImPOSSIBLE”を活用したパラリンピックの学習  (1) 2016 リオパラリンピックのダイジェスト映像の活用 今まで目にすることがなかった競技を知ったり、必死に競技を行っている選手たちの姿に驚いたり、健常者が行っているスポーツ以上に感動を味わうことが出来た生徒が多かった。 (2) クイズで知ろう！パラリンピック その人に必要な工夫や支援をすることで、障害のあるなしにかかわらず、スポーツの楽しさが味わえ、自分の限界に挑戦できていることを理解することが出来た。 (3) パラリンピックの「パラ」「スリーアギトス」とは？ 意味を知り、理解を深めることが出来た。

(4) パラリンピックの歴史

パラリンピックの始まりや競技数の増加とともに、競技人口が増え、参加人数も増えていったことを学んだ。また、用具の進化やルールの改正について理解することが出来た。

2 特別講演会の実施

(1) 日時 平成29年12月20日(水)

10:35~12:25(3・4校時)及び給食

(2) 講師 障害者バドミントン日本代表 藤原大輔 選手(株ライン所属)

(3) 講演内容



約60分の講演では、はじめに、オリンピックとパラリンピックの紹介をしていただいた。パラリンピックで行われている様々な競技のことや、バドミントン競技も、障害の程度によって6つに分けられることなどを教えていただいた。そして、自身の生い立ちの話では、幼少期にスイミングを習っており、そこで“目標を見つけ、それに向かって頑張ることを知った”と振り返っていた。

中学校まで通常学級で過ごし、高校も進学校へ進んだ。バドミントンと勉強を両立させたいと選んだ道だったが“自分が何をしたいのか”が大事であって、競争することが全てじゃないことを知った。高校2年生の時、パラバドミントン競技と出会ったが、初めは快く受け止められなかった。そのことを当時の指導者に指摘され、障害者スポーツへの考え方が変わり、その後パラバドミントンへの転換をしたことなどを話してくれた。更に上を目指して筑波大に進学するも、そこでは挫折の連続だったらしい。しかし、2020東京パラリンピック正式採用となったことで、大きな目標を持つことができた。「分岐点に立ったとき、進んで厳しい道を選んでほしい。」と自身の経験から力説していた。

後半は、実技を披露していただいた。職員との対戦では、会場が笑いに包まれ和やかな雰囲気であったが、バドミントン部の生徒との打ち合いでは、義足でプレーしていることを忘れさせる素晴らしい技術を披露していただき、白熱した実践を目の当たりにすることができた。中学生への熱いメッセージが心に届いた一日となった。



片足での
ジャンピングスマッシュ



生徒との会食(給食)

6 主な成果	<p><u>生徒のアンケートより</u></p> <p><パラリンピックについて分かったこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ○色々な工夫をして行われていることが分かった。 ○知っている競技でも、障害の程度によって分けられていることが分かった。 ○競技の中には、障害者と健常者が一緒に行える競技があることが分かった。 ○あまり見たことがなかったけど、とても感動した。 ○一人一人が自分に勝とうとしているところが凄いと思った。 <p><藤原さんから学んだこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ○困難を乗り越えていく姿が、世界で戦う人は凄いなと感じた。 ○「やった分だけ自分に返ってくる」と話していた。これからの部活に一生懸命取り組んでいきたい。 ○「人と関わることで成長できる」という言葉を忘れずに生活していきたい。 ○義足を感じさせないプレーで、カッコよかった。 ○自分に負けそうになったとき、家族や周りの方たちのことを考えて頑張っていきたいと感じた。 <p><2020 東京オリンピック・パラリンピックにどう関わりたいか></p> <ul style="list-style-type: none"> ○テレビで観戦したい。 ○どんな競技があるのか、インターネットで調べてみたい。 ○いつもはオリンピックだけだけど、パラリンピックも見てみたい。 ○パラバドの応援に行きたい。 ○ボランティアや海外の人との通訳などに関わってみたい。 ○会場に行って、選手を応援し、一緒に感動を味わいたい。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ○小中一貫校のため、小学校に配付されている“TmPOSSIBLE”を容易に活用することができた。 ○生徒たちの、オリンピック・パラリンピックに対する関心を高めるためには、実際の選手に来ていただき、実技を披露してもらえることが強く印象に残るものと考えて計画した。 ○県内在住の講師を紹介してもらうことが出来たので、より身近な話題としてパラリンピックをとらえることが出来た。 ○少人数の学校だけに、生徒との距離も近く、終始和やかな雰囲気であった。 ○講演後、一緒に会食（給食）をし、交流を深めることが出来た。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○講師を紹介してもらえるリスト等があれば紹介してほしい。 ○パラリンピックを理解するための学習は継続していきたい。そのために、年間指導計画の中に組み込んでいきたい。 ○保護者や地域へのPRをもっと積極的に行い、多くの方々にオリンピック・パラリンピックへの関心を高められれば良かった。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ○教材を活用し、パラリンピック教育を推進するための学習は継続していきたい。 ○予算のない中で体験できる内容（シッティングバレーボールやゴールボールなど）を、積極的に取り入れていきたい。